

## 「安全管理・市民ネットワークフォーラム報告書」(要旨)

防災ボランティア活動検討会 事務局  
株式会社 ダイナックス都市環境研究所

### 1. フォーラムの概要

本フォーラムは、市民活動現場における「安全管理」の重要性への認識の高まりに反して、具体的な検討や対策に関する議論は不十分であるという問題意識から、市民による市民のための安全管理対策を考える場として開催された。

日 時 平成18年5月21日(日) 13:30~16:30  
会 場 滝野川会館  
主 催 特定非営利活動法人 日本ファーストエイドソサエティ  
共 催 国際救急法研究所  
神奈川県災害救援ボランティア支援センター・サポートチーム

#### 【コーディネーター】

中川 和之 (NPO 法人東京いのちのポータルサイト理事)

#### 【パネリスト】

岡野谷 純 (NPO 法人日本ファーストエイドソサエティ理事長)

宇田川規夫 (国際救急研究所理事長 /

神奈川県災害救援ボランティア支援センター・サポートチーム)

小池 勝巳 (着衣泳研究会事務局長・新潟県柏崎地域消防本部)

富松 杏奈 (NPO 法人国際ボランティア学生協会)

#### 【グラフィッカー(\*)】

秦好子 (ジャパン・ファイヤ・ファイティング・ウィミンズ・クラブ (JFFW))

久保里砂子 (早稲田商店会事務局長)

洙田靖夫 (労働衛生コンサルタント・医師)

(\*) パネリストの発言、自らの思いを重ね合わせ、キーワードを模造紙に書き出す役

### 2. 災害が起こる前にできる「安全管理」

#### (1) 講習会、研修における課題

- ・ 救急法から、いかに危機を回避することができるかを学ぶこともできる。
- ・ 単に方法を学ぶのではなく、どのような心づもりで講習に望むべきかを考えることも必要ではないか。
- ・ 高齢者などは救急法といった講習会で「助けてもらう方法」を学ぶこともできる。
- ・ CMT (Crisis. Management. Training) では止血法、搬送法なども学べるが、「ボランティアをする自分自身を守ることが大事」という最低限必要なことを伝えるための講座も行っている。

## (2) 平常時の活動

- ・ ボランティア自身の日常生活から危機管理について見直せることがあるのではないかな。
- ・ 「こんな事が起きるかもしれない」というリスクを具体的に考えることが重要だろう。
- ・ 自分たちの生活、地域から防災に関する具体的なイメージをもちながら課題を考えるべきだろう。
- ・ 事故にあった経験を通して、「事故者の心理」といった助けられる側の立場に立つことの重要性を知った。「自分だったらどうされたいか」「どうされたくないか」という視点を持つことも必要だろう。
- ・ 災害ボランティアといっても意識、知識、技術、経験など大きな差があり、このような濃淡のある集団を「力になる集団」にするためにもリーダー、コーディネーターの育成が必要である。
- ・ リスク管理の為にはしくみづくりが大事であり、ボランティアのリスクマネジメントを考えるためのネットワークがあればいい。
- ・ ボランティア保険などの制度を正確に理解していなければならない。
- ・ 情報を得るだけでなく、経験し考えたことをフィードバックしながら情報の質を高めることも必要ではないかな。

## 3. 災害時の「安全管理」

---

### (1) 災害現場における「安全管理者」の役割

- ・ 客観的な立場で現場を見ることが出来る人が必要である。
- ・ リーダー自身が躍起になって自分たちの安全を顧みないことを回避するためにも「安全管理者」は必要である。

### (2) PTSD (心的外傷後ストレス障害) について

- ・ PTSD に関する認識が低いため、知ってもらうことも必要だ。
- ・ メンタルの問題はわかりにくいいため、メンタルリスクより過労の早期発見をする方が重要ではないかな。
- ・ 感受性には個人差があり、特に性差などはお互いに理解しにくい。
- ・ 女性同士のネットワークにより「お互いを知る、理解する」ことも必要だろう。

### (3) 「安全管理」のためのボランティア活動における留意点

- ・ 安全管理には段階的に「予防」「早期発見」「事後対策」がある。考えられること、可能性を見つけて出しリスクの予防に務める必要がある。
- ・ ボランティア活動における過労をいかに早く見つけて処置するかも重要であり、「リスクの早期発見」のために「チェック」しながら客観的に自分自身の行動を把握することも必要だろう。
- ・ ボランティア活動は自分でできることに限界があることを知る、周囲を信じる、委ねる、発掘することが大切ではないかな。
- ・ 現場で経験し学ぶことから安全管理への意識付けをすることもできる。